

全共を終えて



県勢初の日本一となった
小野寺正人さん(41)
＝迫町菱の倉＝

「日本一」は市内全ての畜産農家が
得た称号。「本物の和牛の里」に

今回の全共での目標は、さいぜんれつ号を
「より良い状態に仕上げること」だった。日本
一だと分かったときは、うれしかったが実感
は沸かなかった。それは今も変わらない。

今回の結果は、自分一人の力で得たもの
ではない。チーム宮城、チーム登米市、チーム迫、
多くの人に支えられたからこそ。現在、親牛を
50頭飼養している。その中で、大会用に仕上
げるには手が回らない。仲間たちが、水洗い、
引き回しなどを毎日手伝ってくれた。高橋組
合長や農協からは、飼育管理の情報を随時提
供してもらった。本当にありがたかった。

日本一は、自分一人のものではなく、市内全
体の畜産農家のもの。この結果を、行政、農協、
農家がうまく活用して、登米産牛をPRして
いければと思っている。多くの人たちに、登米
産牛の良さを知ってもらい、登米市を本物の
「和牛の里」にできるよう努力していきたい。



全共期間中、市内出品者が使用した餌台。復興と全共
日本一への思いを込め「前へ」と書かれている。



登米和牛育種組合長
高橋良さん(65)
＝中田町森六荒谷＝

全共の結果は、登米産牛のブ
ランド力向上につながる

肥育農家にとって、ブランド力向上は
牛の取引価格に直結する。今回結果を
残せたことはうれしくもあり、ほっと
している。全共は通常出荷より、8カ月
短い育成期間での出品。全農の指導
などにより、うまく仕上げられた。登米
産牛のブランドが「仙台牛」に統一され
て約4年。神戸牛、松坂牛には、まだ追
付けていない。登米産仙台牛の魅力
を知ってもらえるよう、努力していく。



全共第7区で優等賞6席
金野康さん(58)
＝石越町新道＝

種雄牛「好平茂」が導いた好成
績。農家支援体制をより発展

全共の結果は、登米市の畜産に関わる
ものとして非常にうれしい。登米市の
畜産農家は、育成、改良能力が高く、県
内を牽引している。その中で、好平茂と
いう県の基幹種雄牛が米山から生まれ
た。出品した牛のうち12頭が好平茂の
産子であり、長年の登米の育種改良が、
実を結んだと思う。今後は、今回構築さ
れた畜産農家への支援体制を、より発
展させていきたい。



JAみやぎ全農畜産部生産指導課
川名政路さん(37)

「第11回全国和牛能力共
進会宮城大会(以下、全共)は9
月7日から11日の5日間、仙台
市の夢メッセみやぎ(種牛の
部)および仙台市中央卸売市
場食肉市場(肉牛の部)を会場
に開かれ、39道府県から史上
最多の513頭の和牛が出品
され、日本一の座を競った。
全共は、5年に一度開かれ
「和牛のオリンピック」と呼ば
れる国内最大の品評会。市場
価値やブランド力を高める絶
好の機会、各地の生産者は
上位の成績を目指している。
本市からは、県代表として
9頭が出品。第2区の小野寺
正人さんが、日本一に当たる
優等賞1席の栄誉に輝いた。
全共での日本一は、県勢初の快
挙。小野寺さんのほかにも、本
市勢が5つの区で入賞し、過
去最高の成績を残した。宮城
県は、総合で4位に入賞した。
登米和牛育種組合の高橋組
合長は「前回の全共以降、畜産
農家、行政、農協が一体とな
り、改良に取り組んできた成
果が評価され、非常に喜ばし
い。5年後、さらに良い結果が
残せるよう努力していく」と
先を見据えている。

本市勢は6部門で入賞
宮城県は過去最高4位



「感謝と美味しさ牛つと込めて
和牛の祭典2017 in みやぎ」

第11回
全国和牛能力共進会宮城大会

和牛五輪で 初の日本一

「さいぜんれつ号」の日本一を筆
頭に、6つの区で入賞した登米
産牛。最高の成果を残した、全
共を振り返る

全国和牛能力共進会での受賞成績

出品区	成績	出品者	出品牛名
第2区 (若雌の1)	優等賞1席	小野寺正人(迫町)	さいぜんれつ号
第3区 (若雌の2)	1等賞1席	菅原英和(石越町)	はる号
第6区 (高等登録群)	優等賞5席	登米和牛育種組合 NOA(中田町) 服部泰啓(豊里町) 佐々木昌典(豊里町)	おくひら号 しげひら号 よしひら号
第7区 (総合評価群)	優等賞6席	金野康(石越町)	登米牛号
第8区 (若雄後代検定牛群)	1等賞	千葉敏(豊里町) 千葉正憲(登米町)	好福洋号 隆好久号
第9区 (去勢肥育牛)	優等賞25席	金野康(石越町)	宮勝洋号



1 県勢の悲願だった日本一を獲得
した「さいぜんれつ号」と小野寺
さん。全ての宮城県関係者が、その結
果を喜んだ。2 第6区で優等賞5席
に輝いた登米和牛育種組合。手前
から、よしひら号、しげひら号、お
くひら号。3 第3区で1等賞1席に
入賞した「はる号」、菅原英和さ
ん(左から3人目)と関係者。4 大
会期間中、約42万人が会場に足
を運んだ。5 出品者を代表し、高橋
良さんが震災支援への感謝の意を
込めて宣誓した。6 審査直前まで、
牛の手入れは続けられる

